



720年に、舎人親王らが『日本書紀』を奏上した場所と考えられている平城宮跡



『日本書紀』から現代へ

697年、持統天皇の孫、輕皇子(文武天皇)が即位しましたが、文武天皇は当時15歳という若さであったため、しばらくは持統天皇が初の太上天皇と称して政務の後見役をつとめました。707年、文武天皇が25歳の若さで病に倒れ崩御すると、その子、首皇子(のちの聖武天皇)がまだ幼かったため、文武天皇の母、阿閉皇女(元明天皇)が即位しました。元明天皇は、平城の地に条里条坊を備えた宮都の造営を命じ、710年に、16年間都として栄えた藤原京から奈良の都、平城京に遷都しました。また、712年には、『日本書紀』に先駆けて『古事記』が太安万侶によって奏上されました。715年、元明天皇の娘、氷高内親王(元正天皇)が即位しました。文武天皇が命じた歴史編纂事業は、720年に

文武天皇の子である舎人親王らによって『日本書紀』として完成・奏上されました。約40年もの長い年月をかけた大事業でした。これらのことは、『日本書紀』の後を継ぐ次代の歴史書『続日本紀』に記載されています。

これより以降も、日本では相次いで正史(『日本後紀』『続日本後紀』『日本文徳天皇実録』『日本三大実録』)が編纂され、神代から887年まで継続して歴史書が残されました。それらは、『日本書紀』『続日本紀』を含めて『六国史』と呼ばれています。

奈良県には『日本書紀』ゆかりのスポットがたくさんあります。ぜひ奈良県各地の『日本書紀』の舞台を訪ね、歴史上の人物や出来事に思いをはせてみてください。

まつおでら 松尾寺(大和郡山市山田町)

舎人親王が、勅命で『日本書紀』を編纂する際、42歳の厄年であったために、『日本書紀』の無事完成と厄除けの願をかけて建立した寺とされています。現存する厄除霊場としては、日本最古といわれています。日本唯一の舎人親王像があり、毎年、期間限定で公開されています。



「日本書紀完成・藤原不比等没後1300年記念」イベントをオンライン配信します!

1月23日(土)に開催予定であったイベントの「記念シンポジウム」及び「藤原不比等の足跡を辿る映像」を下記HPで公開。記念シンポジウムでは、「藤原不比等」をテーマとし、馳星周氏による基調講演や、馳氏、里中満智子氏、千田稔氏、ブルース・バートン氏によるパネルディスカッションを行いました。

🌐 www3.pref.nara.jp/miryoku/narakikimanyo/